

(19) 日本国特許庁(JP)

(12) 公開特許公報(A)

(11) 特許出願公開番号

特開2004-51111

(P2004-51111A)

(43) 公開日 平成16年2月19日(2004.2.19)

(51) Int.Cl.⁷

B 6 5 D 33/38

B 6 5 D 33/00

F 1

B 6 5 D 33/38

B 6 5 D 33/00

テーマコード (参考)

3 E 0 6 4

C

審査請求 未請求 請求項の数 1 O L (全 10 頁)

(21) 出願番号 特願2002-207218 (P2002-207218)

(22) 出願日 平成14年7月16日 (2002.7.16)

(71) 出願人 000240123

平田 勲

神奈川県相模原市相模台 3-9-23

(74) 代理人 110000073

特許業務法人プロテック

(72) 発明者 平田 勲

神奈川県相模原市相模台 3丁目9番23号

Fターム(参考) 3E064 AB23 BA26 BA30 BA36 BB03

BC18 EA12 FA04 FA05 HA06

HB05 HJ01 HN05 HP01

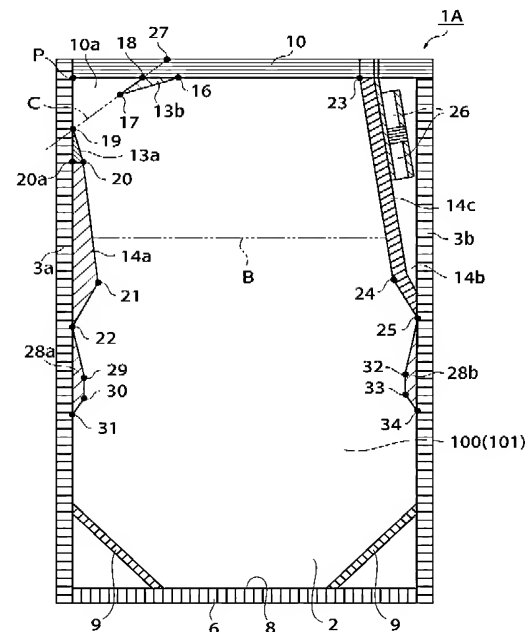
(54) 【発明の名称】 簡易袋容器

(57) 【要約】

【課題】 内容物を最後まで安定した状態で注ぎ出すことができ、しかも搬送時の胴部の変形を防止可能な簡易袋容器の提供

【解決手段】 口元隅角部10aの上縁シール部10と胴部側縁3aとに、略円形状の注出口部15を形成し且つ前記注出口部15の変形を防止するための三角形形状の絞り部13a、13bがそれぞれ設けられており、カットラインCは、絞り部13bにおける下端点17と、絞り部13aにおける上端点19とを通過するように、斜めに且つ直線状に設けられ、さらに絞り部13bを、前記上縁シール部10と前記カットラインCとの交点18にて当該絞り部13bの鈍角部分が形成されるような鈍角三角形形状とすることにより、両絞り部13a、13bの間の内部空間を略筒形状に形成させるように構成する。

【選択図】 図1



【特許請求の範囲】

【請求項 1】

フレキシブルフィルムからなり、筒形状の胴部と、前記胴部上縁の開口した口元部と、前記胴部の下縁の閉口した底部とを備え、前記口元部から所定量の内容物を充填した後に前記口元部をシールして上縁シール部とすることで前記内容物を密封し、また口元隅角部に設けられたカットライン上を開封して注出口部を形成することにより前記内容物を注出することができる簡易袋容器において、

前記口元隅角部の上縁シール部と胴部側縁とに、略円形状の注出口部を形成し且つ前記注出口部の変形を防止するための三角形形状の絞り部がそれぞれ設けられており、

前記カットラインは、上縁シール部の絞り部における下端点と、胴部側縁の絞り部における上端点とを通過するように、斜めに且つ直線状に設けられ、

前記上縁シール部に設けられた絞り部を、前記上縁シール部と前記カットラインとの交点にて当該絞り部の鈍角部分が形成されるような鈍角三角形形状とすることにより、容器開封時に上縁シール部の絞り部と胴部側縁の絞り部との間の内部空間を略筒形状に形成させるように構成したことを特徴とする簡易袋容器。

【発明の詳細な説明】

【0001】

【発明の属する技術分野】

本発明は、例えばフレキシブルな樹脂フィルム（合成樹脂フィルム）単層材、またはその樹脂フィルムに多種類の樹脂フィルムを積層したフレキシブルな積層材などから成る簡易袋容器に関するものである。

【0002】

【従来の技術】

以下、従来の簡易袋容器について、図5から図8を参照して説明する。

【0003】

＜簡易袋容器の構成＞

図において、符号Aはポリエチレン、ポリプロピレン、ナイロン等の樹脂フィルム（以下、フレキシブルフィルムという）から成り、図8に示す筒形状の胴部5と、前記胴部5上縁において開口した状態の口元部1と、前記胴部5の下縁において閉口している底部2とから成る簡易袋容器である。この簡易袋容器Aは、通常、図5及び図8（A）に示すように平面形状に折り畳まれた状態にあり、液状内容物を充填すると、図6、図7及び図8（B）に示すような立体形状となる。

【0004】

以下、この従来の簡易袋容器Aの構成について詳細に説明する。前記簡易袋容器Aは、図8（A）に示すように、1枚のフレキシブルフィルムの略中央部分をW形状に折り込むことにより、表側部分100と、逆V形状の底側部分102と、裏側部分101とから成る。もしくは前記簡易袋容器Aは、1枚のフレキシブルフィルムの表側部分100の下端部と、同じく1枚のフレキシブルフィルムの裏側部分101の下端部との間に、同じく1枚のフレキシブルフィルムを逆V形状に折り曲げて形成された底側部分102の両下端部を接続して、図8（A）に示すような構成となるものである。

【0005】

さらにより具体的に前記簡易袋容器Aの構成について説明すると、従来の前記簡易袋容器Aは、容器Aの上縁が開口された口元部1（後述のように上縁開口部を密封するためにシールした場合は上縁シール部10）と、容器Aの下縁部を図8（A）のようにW形状に形成するW底部2と、当該W底部2から前記口元部1までの左右両側（即ち、胴部5の両側縁であって、表側部分100と裏側部分101との間、表側部分100と底側部分102との間、裏側部分101と底側部分102との間）をそれぞれシールするサイドシール部3と、前記W底部2の下縁をシールする下縁シール部6と、前記W底部2の1本の山折り曲げ線7の両端と前記サイドシール部3との交点から、前記W底部2の2本の谷折り曲げ線（前記下縁シール部6の内側の縁）8までの間を斜めにシールする左右のW底シール

10

20

30

40

50

部 9 と、前記サイドシール部 3 の片側あるいは両側に設けた湾曲凹線より成る保持凹部 4 とを備えて成る。

【0006】

<内容物の充填，密封手順>

次に、上述のような構成の従来の簡易袋容器 A に内容物を充填する手順を説明する。前記簡易袋容器 A へ内容物を充填する場合、通常、図 5 及び図 8 (A) のように平面形状に折り畳まれた状態の簡易袋容器 A 内に、口元部 1 から内容物を充填する。すると、その簡易袋容器 A はフレキシブルな材質から成るため、その平面形状の簡易袋容器 A は立体形状に構成される。具体的には、図 6，図 7 及び図 8 (B) に示すように、簡易袋容器 A の表側部分 100 及び裏側部分 101 の中央部分が前後方向に膨らんで拡がると共に、左右両サイドシール部 3 と表側部分 100 及び裏側部分 101 の左右両側部分とが左右方向（上述の前後への膨らみ方向に対してほぼ直交する方向）に引き込まれ、且つ図 8 (B) のように W 底部 2 に容器の底が略水平に形成されて、平面形状の簡易袋容器 A が立体形状に構成される。またこの時、前記保持凹部 4 が容器内側に食い込み、立体形状の簡易袋容器 A の左右両サイドシール部 3 にそれぞれ凹部 11 が形成される。こうして所望の量の内容物が充填された後、立体形状の簡易袋容器 A の前記口元部 1 において、表側部分 100 と裏側部分 101 とをシールすることにより、簡易袋容器 A 内に内容物を密封することとなる。

10

【0007】

<簡易袋容器の開封手順>

また、以上のように内容物を密封，収容する簡易袋容器 A を開封する場合は、口元部 1 を密封する上縁シール部 10 からサイドシール部 3 にかけて、図 6 中の二点鎖線で示すカットライン C 上をハサミやカッター等でカットして開封する。このようにカットライン C 上をカットすることで、図 7 に示すように注出口部 12 が形成されるため、内容物を注出口部 12 から容器外部へ注出することが可能となる。

20

【0008】

以上のような簡易袋容器 A は、フレキシブルな材質から成るので、瓶などの容器に比べて安全性の確保された容器である。また、内容物を容器外部へ注ぎ出した後には、図 5 及び図 8 (A) のように平面状に折り畳んで捨てることができるため、ブローボトルや瓶等の容器と比較して嵩張ることがなく、ごみの容積を小さくすることができ、ごみ処理が容易である。以上のような観点から、一般的には上述のような簡易袋容器 A が広く使用されている。

30

【0009】

【発明が解決しようとする課題】

しかしながら、フレキシブルフィルムから成る簡易袋容器 A は容器自体が変形し易いため、特に子供や手の不自由な方が他の容器に内容物を注ぐ際に、簡易袋容器 A を保持しにくく、その結果、他の容器に内容物を安定した状態で注ぎ込むことは困難であった。また、簡易袋容器 A における上述のような従来の構成では、開封された注出口部 12 から内容物を注ぎ出す際に、内容物の内圧（内容物が簡易袋容器 A の内面側にかかる圧力）の圧力差により、注出口部 12 の開口形状が簡単に變形してしまう。このため、従来の簡易袋容器 A から内容物を他の容器に注ぐ際、この従来の簡易袋容器 A をしっかり保持して慎重に注ごうとしても、注出口部 12 が任意方向に歪む等、簡単に變形してしまい、その結果、内容物が他の容器の外側に零れる等して、注出口部 12 から内容物を注ぎ出すことが困難であった。

40

【0010】

また、内容物を注ぎ易くするために注出口部 12 の開口面積を大きくすると、注出口部 12 がさらに變形し易くなって内容物がさらに外に零れ易くなり、注出口部 12 の開口面積を小さくすると、注出口部 12 を開けし難くなり、特に粘性の高い液状内容物は注出口部 12 から流れ出ず、さらには内容物の注ぎ出しに伴って簡易袋容器 A が縮小變形して取り扱いにくくなる等の不都合が生じてしまう。

【0011】

50

また、従来の簡易袋容器 A はフレキシブルフィルムから成るため、搬送時に内容物が揺れ、簡易袋容器 A の入日線（簡易袋容器 A 中の内容物の上面）近傍から上方にかけての部分に変形し、その結果、商品価値が低下する等の不都合があった。

【0012】

そこで本発明の目的は、上記不都合を改善し、内容物を最後まで安定した状態で注ぎ出すことができ、搬送時の胴部の変形を防止することができ、粘性の高い液状内容物の容器としても最適な簡易袋容器を提供することにある。

【0013】

【課題を解決するための手段】

上記目的を達成するため、本発明は、フレキシブルフィルムからなり、筒形状の胴部と、前記胴部上縁の開口した口元部と、前記胴部の下縁の閉口した底部とを備え、前記口元部から所定量の内容物を充填した後に前記口元部をシールして上縁シール部とすることで前記内容物を密封し、また口元隅角部に設けられたカットライン上を開封して注出口部を形成することにより前記内容物を注出することができる簡易袋容器において、前記口元隅角部の上縁シール部と胴部側縁とに、略円形状の注出口部を形成し且つ前記注出口部の変形を防止するための三角形形状の絞り部がそれぞれ設けられており、前記カットラインは、上縁シール部の絞り部における下端点と、胴部側縁の絞り部における上端点とを通過するように、斜めに且つ直線状に設けられ、前記上縁シール部に設けられた絞り部を、前記上縁シール部と前記カットラインとの交点にて当該絞り部の鈍角部分が形成されるような鈍角三角形形状とすることにより、容器開封時に上縁シール部の絞り部と胴部側縁の絞り部との間の内部空間を略筒形状に形成させるように構成したことを特徴とする。

【0014】

【発明の実施の形態】

以下、本発明の一実施形態に係る簡易袋容器について、図 1 から図 4 を参照して説明する。図 1 から図 4 は本発明の一実施形態に係る簡易袋容器を示している。尚、図中、図 5 から図 8 と同符号の部分はどれも同一のものであるとする。

【0015】

＜本実施形態に係る簡易袋容器の構成＞

図において、本発明の簡易袋容器 1 A は、厚さが約 0.13～0.15 mm のフレキシブルフィルムから成り、従来の簡易袋容器 A と同様に、表側部分 100 と、裏側部分 101 と、及び表側部分 100 と裏側部分 101 との間であり且つ容器下部に備えられた逆 V 字形状の底側部分 102 とから構成されている。また簡易袋容器 1 A は、容器 1 A の上縁をシールしてなる上縁シール部 10 と、下縁部が W 字形状に形成されてなる W 底部 2 と、前記上縁シール部 10 から前記 W 底部 2 までの左右両側部分において表側部分 100 と裏側部分 101、表側部分 100 と底側部分 102、及び裏側部分 101 と底側部分 102 の各部分をそれぞれシールするサイドシール部 3 a、3 b とを備えている。

【0016】

そして、図 1 に示すように、上縁シール部 10（本実施形態では、容器左上側）並びに胴部 5 の側縁（本実施形態では、容器左上側のサイドシール部 3 a）には、図 3 の略円形状の注出口部 15 を形成し且つ当該注出口部 15 の変形を防止するための第 1 絞り部 13 a、13 b が、それぞれ 1 つずつ設けられている。この上縁シール部 10 の第 1 絞り部 13 b は三点 16、17、18 を結ぶ鈍角三角形形状をなし、一方の左側サイドシール部 3 a に設けられた第 1 絞り部 13 a は三点 19、20、20 a を結ぶ三角形形状をなしている。また、この第 1 絞り部 13 a は、後述する第 2 絞り部 14 a と一体となって、四点 19、20、21、22 を結ぶ細長い四角形状の絞り部を構成している。また、本実施形態の簡易袋容器 1 A には、上縁シール部 10 の第 1 絞り部 13 b における下端点 17 と、左側サイドシール部 3 a に設けられた第 1 絞り部 13 a における上端点 19 とを通過するように、斜めに直線状のカットライン C が設けられており、さらに上縁シール部 10 とカットライン C との交点 18（第 1 絞り部 13 b の左上点 18）において、図 1 のように当該第 1 絞り部 13 b の鈍角が形成されている。

10

20

30

40

50

【0017】

このような本実施形態の簡易袋容器1Aにおいて、特に重要な構成上の特徴は、上縁シール部10の第1絞り部13bにおいて、カットラインC上にある第1絞り部13bの下端点17が、当該第1絞り部13bの最左端点となっており、且つ第1絞り部13bの左上点18において、当該第1絞り部13bの鈍角が形成されていることである。このようにカットラインCが設けられた口元隅角部10aにおいて、上記のように下端点17が最左端点でもあるように鈍角三角形形状の第1絞り部13bを形成すると、点16と点17との間の辺と、点19と点20との間の辺とが容器内部に向かって末広形状を成すこととなる。この末広形状により、開封時の容器内部において、図3の如く2つの第1絞り部13a, 13bの間に略筒形状の空間が形成され、後述の如く内容物を最後まで安定した状態で注ぎ出すことが可能となる。

10

【0018】

また、本実施形態の簡易袋容器1Aには、胴部5の左右両側のサイドシール部3a, 3bにおける略中間部分に、搬送時の内容物の揺れによる胴部5の変形防止のための第2絞り部14a, 14bがそれぞれ一つずつ設けられている。左側サイドシール部3aにおける第2絞り部14aは、四点20, 20a, 21, 22を結ぶ細長い四角形状をなすものであり、この第2絞り部14aの上方部分は、図1のように前記第1絞り部13aと一体となっている。

【0019】

一方、胴部5の右側サイドシール部3bにおける第2絞り部14bは、三点23, 24, 25を結ぶ細長い略三角形形状をなすものであり、この三点23, 24, 25を結ぶラインに沿って表側部分100と裏側部分101とがシールされている。尚、この第2絞り部14bの下端点25は、左側サイドシール部3aにおける第2絞り部14aの下端点22と同様の高さに位置している。また、左右両側の第2絞り部14a, 14bの絞り込み点21, 24においても双方が略同一の高さに位置している。

20

【0020】

ここで、本実施形態の簡易袋容器1Aにおいて、上記三点23, 24, 25を結ぶラインに沿ってシールするラインシール部14cと、前記右側サイドシール部3bと、前記上縁シール部10とで囲まれた領域には、指を差し込んで当該簡易袋容器1Aを保持するための指掛け孔26が設けられている。尚、本実施形態では二個の指掛け孔26が設けられており、簡易袋容器1Aを保持する場合には、人差し指と中指とをそれぞれの指掛け孔26に差し込むことによって、特に子供や手の不自由な者にとっても、この簡易袋容器1Aをしっかりと保持することが可能となる。

30

【0021】

また本実施形態において、上縁シール部10側の第1絞り部13bのカットラインC上にはカットラインC上をカットし易いようにノッチ27が設けられている。尚、このノッチ27は特に設けられていなくとも良い。

【0022】

さらに本実施形態の簡易袋容器1Aにおいて、左側サイドシール部3aの第2絞り部14aの直下には四点22, 29, 30, 31を結ぶ略台形形状をなす第3絞り部28aが、また右側サイドシール部3bの第2絞り部14bの直下には四点25, 32, 33, 34を結ぶ略台形形状をなす第3絞り部28bが設けられている。この左右両サイドシール部3a, 3bの第3絞り部28a, 28bによって、内容物を充填密封した状態の簡易袋容器1Aには、図2及び図3のように第3絞り部28a, 28bが大きく容器内側に食い込んだ状態の中間凹部35が形成される。この中間凹部35によって容器胴部の保形作用が生じるため、簡易袋容器1Aは、内容液の内圧及び輸送中の振動により発生する力に対して強い容器となる。このように簡易袋容器1Aは、容器の重心バランスの大きな変化に強い容器となるため、内容物を注出することで内容量が少量となっても、容器の重心バランスが保たれる。また、この保形作用により、特に子供や手の不自由な者が内容物を注ぐ場合においても、簡易袋容器Aをしっかりと保持し易くなるため、他の容器に内容物を安定

40

50

した状態で注ぎ込むことが可能となる。また、内容物を収容した簡易袋容器 1 A を載置する場合においては、安定した状態で載置することができる。

【0023】

＜本実施形態に係る簡易袋容器の充填密封＞

以上のような構成の簡易袋容器 1 A において、内容物を充填、密封する場合について説明する。この場合、まず開口する口元部 1 から内容物を簡易袋容器 1 A 内に充填し、その口元部 1 をシールして上縁シール部 1 0 とすることによって、図 2 に示すように簡易袋容器 1 A 内に内容物が充填密封される。またこの時、充填、密封された簡易袋容器 1 A では、第 2 絞り部 1 4 a, 1 4 b の下端点 2 2, 2 5 の部分が内容物の充填密封に伴って当該簡易袋容器 1 A の内側に引っ張られ、この第 2 絞り部 1 4 a, 1 4 b に保形作用が生じる。10
こうして第 2 絞り部 1 4 に生じた保形作用により、簡易袋容器 1 A の搬送時に内容物が揺れることによって簡易袋容器 1 A の入口線 B 近傍から上方にかけての部分が変形するという不都合が解消され、商品価値の低下防止が実現される。

【0024】

＜本実施形態に係る簡易袋容器の開封＞

また、内容物を他の容器に注ぐために簡易袋容器 1 A を開封する場合は、ノッチ 2 7 からカットライン C 上をカットすればよい。このようにカットすることで、図 3 に示すように、第 1 絞り部 1 3 a, 1 3 b により、略円形状の注出口部 1 5 が容易に形成される。また、容器内部において、2 つの第 1 絞り部 1 3 a, 1 3 b の間に略筒形状の空間が形成され、さらに前記注出口部 1 5 は、第 1 絞り部 1 3 a, 1 3 b にて生じる保形作用により変形20
することがないため、口栓と同等の効果を達成することができる。

【0025】

つまり、前記注出口部 1 5 は、内容物の注出の際に、略筒形状の空間が形成されると共に、内容物の内圧の圧力差により容易に変形することがないため、簡易袋容器 1 A から他の容器（図示せず）に内容物を注ぐ際に、注出口部 1 5 が任意方向に歪む等して内容物が他の容器の外に零れたりする虞がない。

【0026】

また、この注出口部 1 5 は変形し難いので、注出口部 1 5 を従来よりも大きく開口することができ、粘性の高い液状内容物を注出する場合や、例えば業務用容器として簡易袋容器 1 A を用いる際のように多量の注出量が必要な場合でも注出口部 1 5 から容易に注ぎ出す30
ことが可能となる。さらに、本実施形態の簡易袋容器 1 A は、図 1 のように、第 1 絞り部 1 3 b の下端点 1 7 が最左端点でもあり、且つ第 1 絞り部 1 3 b の左上点 1 8 において当該第 1 絞り部 1 3 b の鈍角が形成されるように鈍角三角形形状の第 1 絞り部 1 3 b を形成しているため、内容物の注出時に容器外部の空気が注出口部 1 5 から簡易袋容器 1 A 中にスムーズに流入することができる。これより、内容物をスムーズに且つ安定した状態で注ぎ出すことが可能となり、且つ簡易袋容器 1 A が縮小変形することなく取り扱い易くなる。以上より、本実施形態の簡易袋容器 1 A によれば、袋容器に口栓を設けずとも、内容物を最後まで安定した状態で注ぎ出すことができる。

【0027】

また、一旦開封した簡易袋容器 1 A において、前記略筒形状の空間を指などで挟み、注出口部 1 5 の上縁から 1 0 乃至 1 3 mm 下方の位置を当該注出口部 1 5 の上縁と平行に折り曲げると、その折り曲げられた容器表側部分 1 0 0 と裏側部分 1 0 1 とが強制的に密着させられて一方に折り曲げられることによって、この密着状態の二枚のフィルム 1 0 0, 1 0 1 が折り曲げられた方向に「くの字」状に折り曲がった状態は、二つの第 1 絞り部 1 3 a, 1 3 b によって保持されるため、簡易袋容器 1 A の注出口部 1 5 を再密封することが可能となる。以上により、本実施形態の簡易袋容器 1 A によれば、例えば注出口部 1 5 を開封後、冷蔵庫等に保存した場合、冷蔵庫内に残存する異臭などに影響されることなく、簡易袋容器 1 A を再密封状態で持続的に自立させて保存することが可能となる。40

【0028】

ここで、本実施形態の簡易袋容器 1 A によれば、内容物をスムーズに且つ安定した状態で50

注ぎ出すことができるが、このためには簡易袋容器 1 A における各部のサイズを以下のように設定することが最良である。このサイズについて、簡易袋容器 1 A の内容量を 1 リットルとした場合の最適なサイズ設定を、図 4 を参照して説明する。まず、左側サイドシール部 3 a の第 1 絞り部 1 3 a の上端点 1 9 と、上縁シール部 1 0 と左側サイドシール部 3 a との交点 P (口元隅角部 1 0 a の上端点 P) との間の距離 L_1 を 25 mm とし、第 1 絞り部 1 3 b の左上点 1 8 と前記交点 P との間の距離 L_2 を 30 mm とし、且つカットライン C 上における前記第 1 絞り部 1 3 a の上端点 1 9 と前記第 1 絞り部 1 3 b の下端点 1 7 との間の直線距離 D を 25 mm とする。また、左側サイドシール部 3 a の第 1 絞り部 1 3 a の絞り込み点 2 0 を、左側サイドシール部 3 a から容器内側 3 mm の位置に設定する。

【0029】

10

さらに、左側サイドシール部 3 a に設けられた第 2 絞り部 1 4 a の下端点 2 2 を、前記交点 P から 117 mm 下方に設定すると共に、左側サイドシール部 3 a の第 2 絞り部 1 4 a の絞り込み点 2 1 を、第 1 絞り部 1 3 a の下端点 2 0 a より 60~70 mm 下方で且つ左側サイドシール部 3 a から容器内側 10 mm の位置に設定する。また、右側サイドシール部 3 b に設けられた第 2 絞り部 1 4 b の下端点 2 5 は、左側サイドシール部 3 a に設けられた第 2 絞り部 1 4 a の下端点 2 2 と略同一高さ (即ち、交点 P から 117 mm 下方の位置) になるように設定すると共に、右側サイドシール部 3 b の第 2 絞り部 1 4 b の絞り込み点 2 4 についても、左側サイドシール部 3 a の第 2 絞り部 1 4 a の絞り込み点 2 1 と略同一高さ (即ち、交点 P から 97 mm 下方の位置) で且つ右側サイドシール部 3 b から容器内側 10 mm の位置に設定する。

20

【0030】

さらに、左右両側サイドシール部 3 a, 3 b に設けられた第 3 絞り部 2 8 a, 2 8 b の下端点 3 1, 3 4 を、第 2 絞り部 1 4 a, 1 4 b の下端点 2 2, 2 5 よりもそれぞれ 50 mm 下方の位置に設定すると共に、左右両側サイドシール部 3 a, 3 b の第 3 絞り部 2 8 a, 2 8 b の絞り込み点 2 9, 3 2 を、各第 2 絞り部 1 4 a, 1 4 b の下端点 2 2, 2 5 より 30 mm 下方で且つサイドシール部 3 から容器内側 5 mm の位置に設定する。

【0031】

また、1 リットル収容可能な簡易袋容器 1 A では、胴部 5 における図 4 中の幅 W を 140 mm と設定しており、このサイズに設定することにより、簡易袋容器 1 A は 1 リットルの内容物を充填可能としている。また、簡易袋容器 1 A を 2 リットル収容可能とする場合は、幅 W = 190 mm、距離 L_1 = 35 mm、距離 L_2 = 40 mm、直線距離 D = 45 mm と設定することで 2 リットル収容可能となる。尚、各部のサイズは、容器に充填させる液状内容物の内容量、フィルムの材質あるいはフィルムの厚さによって適宜設定可能である。

30

【0032】

【発明の効果】

以上に述べたように、本発明の簡易袋容器は、特に子供や手の不自由な者にとってもしつかりと保持し易く、且つ注出口部が変形せず、さらには内容物の注出時に容器外部の空気が注出口部から簡易袋容器内にスムーズに流入することができるため、他の容器に内容物を安定した状態で注ぎ込むことが可能となると共に、粘性の高い液状内容物の容器としても最適なものとなる。さらに、搬送時の胴部の変形を防止することができる。また、冷蔵庫等でこの簡易袋容器を再密封状態で自立させて保存することも可能となる。

40

【図面の簡単な説明】

【図 1】本発明の一実施形態に係る簡易袋容器が平面形状に折り畳まれた状態の正面図である。

【図 2】本実施形態に係る簡易袋容器内に内容物を充填密封した状態の図である。

【図 3】図 2 の簡易袋容器を開封した状態の図である。

【図 4】本実施形態に係る簡易袋容器において設定される容器サイズの一例を示す図である。

【図 5】従来の簡易袋容器を示し、平面形状に折り畳まれた状態の正面図である。

50

【図 6】 図 5 に示す簡易袋容器中に内容物を充填密封した状態の斜視図である。

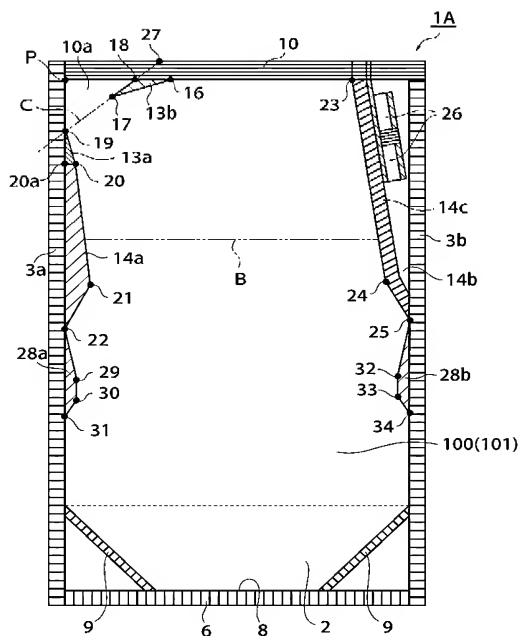
【図 7】 図 6 に示す簡易袋容器に注出口部を形成した状態の斜視図である。

【図 8】 (A) は平面形状に折り畳まれた状態の各部を示した概略横断面図、(B) は簡易袋容器中に内容物を充填密封した状態の各部を示した概略横断面図である。

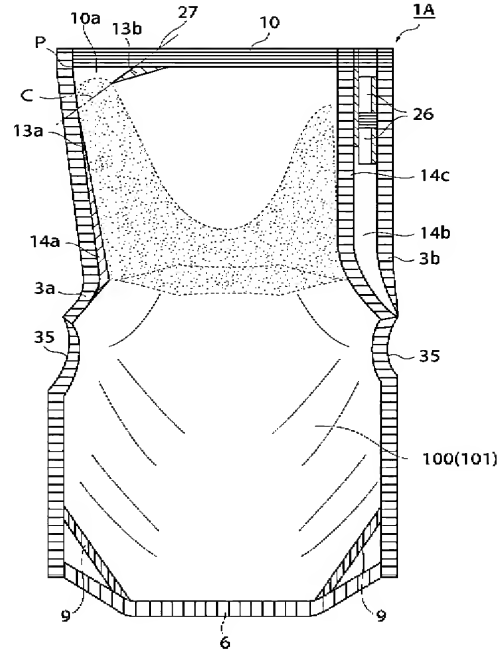
【符号の説明】

1 A … 簡易袋容器、1 … 口元部、2 … W 底部、3 a, 3 b … サイドシール部、5 … 胴部、6 … 下縁シール部、7 … 山折り曲げ線、8 … 谷折り曲げ線、9 … W 底部シール部、10 … 上縁シール部、10 a … 口元隅角部、13 a, 13 b … 第 1 絞り部、14 a, 14 b … 第 2 絞り部、15 … 注出口部、22, 25 … 第 2 絞り部の下端点、28 a, 28 b … 第 3 絞り部、B … 入目線、C … カットライン、P … 上縁シール部とサイドシール部 3 a との交点 (口元隅角部 10 a の上端点 P)。 10

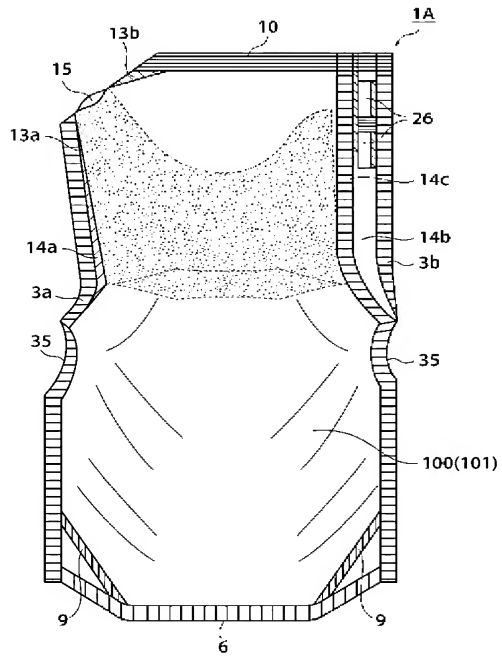
【図 1】



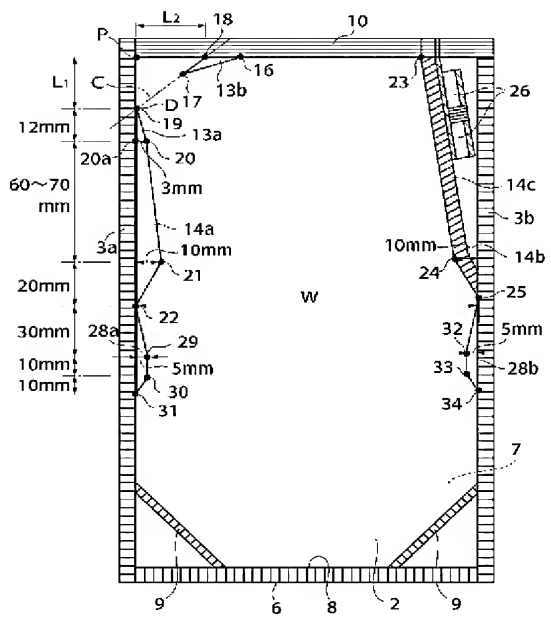
【図 2】



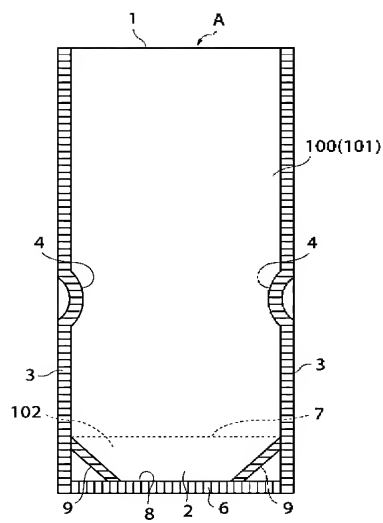
【図 3】



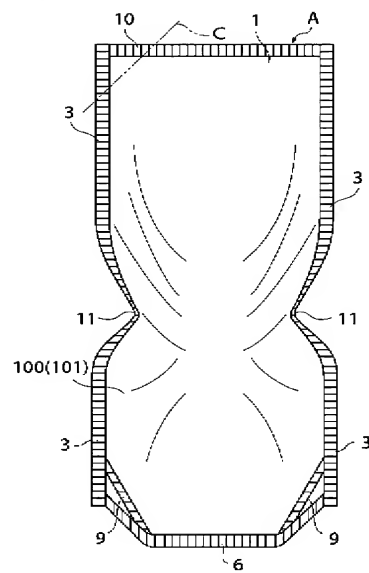
【図 4】



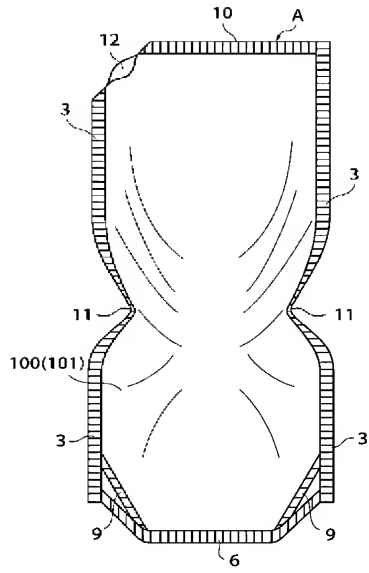
【図 5】



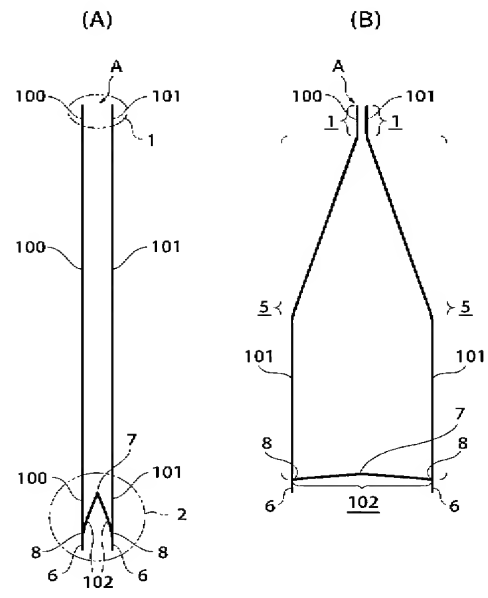
【図 6】



【図 7】



【図 8】



PAT-NO: JP02004051111A
DOCUMENT-IDENTIFIER: JP 2004051111 A
TITLE: SIMPLE BAG CONTAINER
PUBN-DATE: February 19, 2004

INVENTOR-INFORMATION:

NAME	COUNTRY
HIRATA, ISAO	N/A

ASSIGNEE-INFORMATION:

NAME	COUNTRY
HIRATA ISAO	N/A

APPL-NO: JP2002207218
APPL-DATE: July 16, 2002

INT-CL (IPC): B65D033/38 , B65D033/00

ABSTRACT:

PROBLEM TO BE SOLVED: To stably pour out contents to the last and prevent a barrel from deforming during the conveyance.

SOLUTION: An approximately annular pouring port 15 is formed on an upper rim seal 10 of a mouth corner 10a and a barrel side rim 3a, and triangular constrictions 13a and 13b for preventing the deformation of the pouring port 15 are provided respectively. A cut line C is

provided to be slant and linear to pass through the lower end point 17 on the squeezing part 13b and the upper end point 19 on the squeezing part 13a. The part 13b is further formed as an obtuse-angled triangle where the obtuse-angled portion of the squeezing part 13b is formed at the intersection 18 of the seal 10 and the cut line C, thereby forming the internal space between both constrictions 13a and 13b to be approximately cylindrical.

COPYRIGHT: (C) 2004, JPO